

鍋島直正

なべしま なおまさ

ずば抜けた先進性を持つ名君。技術立国日本の基を作り上げた男。



経営 経営

《人物像》

- 新しいものはどんどん受け入れる開明性
- 計算高いそとばん大名
- ひょうひょうとかかわす昼行灯

Nabeshima Naomasa

日本をリードしたリーダーシップ

佐賀藩9代藩主・鍋島齊直(なりなお)の嫡子として江戸の佐賀藩邸に生まれる。17歳で家督を継ぎ10代藩主になると、以降30余年の在位時代に様々な改革を断行し、佐賀藩を幕末の雄藩にのし上げた。

当時、佐賀藩は福岡藩と共に一年交代で長崎港の警備についており、その負担が重く、藩の財政は逼迫していた。直正はまず粗衣粗食令を出し、自らも率先。藩の役人の大幅なリストラ、借金の整理、磁器・茶・石炭などの産業育成を通して財政改革を行い、着実に藩の財政を改善した。

教育にも力を入れ、藩校「弘道館」の拡充や洋学を学ぶ蘭学寮を設置。子息の成績によって父親の禄を決定するといった、他藩に類を見ない「文武課業法」を制定するなど、徹底して勉学を推奨し、明治政府の人材の宝庫の土壌を作った。医学にも力を入れ、医学寮を設置、当時世襲制が当たり前だった医者免許制度を日本で初めて取り入れ、さらに当時不治の病であった天然痘の根絶のため、種痘を自らの長男で試すことでその信頼性を世に示した。

そして長崎警備の名目の元、国防のための兵器の必要性を感じ、鉄製大砲製造のための反射炉を築いたり、理化学研究所「精煉方」や海軍伝習所を設置、国産初の蒸気機関の開発など、幕末佐賀藩の技術力は日本の最先端を走っていた。

その結果として佐賀藩の軍事力と多くの優秀な人材は、明治維新期に大きな役割を果たし、日本の近代化を推進する原動力となった。

【概略年表】

年	年齢	出来事
1814	文化11年 1	12月7日誕生、幼名貞丸
1830	天保元年 17	家督を継ぎ、佐賀藩第10代藩主となる
1835	天保6年 22	佐賀城二の丸火災、本丸再建を表明
1840	天保11年 27	藩校弘道館を拡張/長崎警備を強化
1844	弘化元年 31	火術方を設け砲術研究 オランダ軍艦パレンバン号に乗り込み視察
1849	嘉永2年 36	世子淳一郎君に種痘をためす
1850	嘉永3年 37	築地反射炉建設に着工
1851	嘉永4年 38	医学寮と蘭学寮を併設/神ノ島・四郎島間の埋立着工
1852	嘉永5年 39	精煉方を設ける
1858	安政5年 45	三重津御船手稽古所を設ける/医学寮を移転、好生館とする
1861	文久元年 48	隠居して閑叟を号する
1865	慶応元年 52	長崎に英学塾「致遠館」を設ける
1869	明治2年 56	上院議長拜命/大納言となる/北海道開拓史長官となる
1871	明治4年 58	1月18日死去

あなたにとって鍋島直正とは？ 教育理念と開明性を 持ち合わせた名君

佐賀城本丸歴史館 館長
杉谷 昭 さん



私と直正との付き合いはもう70年にもなります。私は島根の出身ですが、北京日本人学校から日本の中学に進む時には、父から直正公の教育理念が残る佐賀中学校を勧められました。そこから直正一筋の人生です。とかく開明的で、キリスト教徒のフルベッキやフレンチらを佐賀に呼んだり、多くの外国船にも乗りこんだり、子供を留学させないかと言われるれば、自分が行きたいと言いつつ、幕府も手に負えないとあきれていたようです。一部では二股膏薬、日和見主義だと言われてはいますが、30万の領民を飢えさせないためには極端なことではできません。こんな佐賀の素晴らしい偉人を多くの人に知ってほしいですね。

鍋島直正を知る入門の一冊 「鍋島閑叟」

直正の伝記だけでなく、幕末佐賀藩の政治や教育制度等、コンパクトにまとめられ、佐賀藩研究には最適な入門書。
杉谷昭 著/中公新書 刊/798円(税込)



▲「築地反射炉絵図」(鍋島報効会蔵)
直正が鉄製大砲製造のために築地(ついで)今の佐賀市長瀬町)に作らせた日本初の反射炉。後に幕府からの大砲の注文に応えるため、市内の多布施にも作られた

ショック!意気揚々の御国入りのはずが...

17歳で家督を継いだ直正が、意気揚々と江戸から佐賀へ向かう途中、品川の宿で何と足止めを食らった。実は江戸の商人たちが未払い金の返済を求めて立ちふさがっていたのだ。直正はそれほどまでに藩の財政が逼迫している事を知り、そのショックがトラウマとなって儉約令など藩の様々な財政改革に打ち込んでいく。これらの借金も、その8割を放棄させ、残りを50年賦にするという、ほとんど踏み倒しに近い力技。しかしこの経験が佐賀藩が雄藩への道を進む一つのきっかけとなっていく。



▲「鍋島直正公御史記巻百四」に記された品川宿での足止めの様子
西村慶介氏蔵(佐賀県立博物館保管)

切腹を諫め、死罪を許し 多くの人材を次世代に!

直正は家来の命を軽んじるようなことは一切しなかった。事実、江藤や大隈、副島らも当時重罪とされた脱藩をしているが謹慎処分済んでいる。また失敗続きの大砲製造の責任者が切腹を考えると「死のうとは何事だ!」と奮起させている。たまに死刑が決まった時は涙を流し、執行前夜は酒を禁じていたという。慈愛と人道主義に満ちた人柄だった。



▲「鍋島直正和蘭船乗込図」(鍋島報効会蔵)
開明的だった直正。長崎港にオランダ船が入港すると、その船に乗り込み、熱心にその技術を学んだ。当時外国船に乗った大名は直正だけだったと思われる

敵か?味方か? のらりとかわす大胆さ

尊王が佐幕かで揺れる中、当時強大な軍事力を持つ佐賀藩の動向は各藩が気になる所。味方にしようとした幕府の使いに、直正は「痔でござってな」と断り真意を見せぬ。最後は倒幕軍につき、明治維新の大きな原動力の一つとなったが、直正は程なくして亡くなってしまふ。「戦国の世に生まれていれば、もう少し面白い世を送っていたかもしれぬ」。死ぬ間際、そう漏らしたといわれる。



鍋島直正二行書「先皇後深」(佐賀県立博物館蔵)▲
国を思うものは、常に民に先立つて国のことを憂い、民が楽しんだ後に自分が楽しむという意味で、直正の座右の銘。直正は天下國家を憂い続けた直正の人柄を表す言葉



▲安政6年11月、江戸溜池邸にて撮影された46歳の直正。まさに佐賀藩内の様々な改革や技術・産業開発などが行われていた隆盛期の頃の肖像(鍋島報効会蔵)

勉強するなら佐賀! 中央からの地方留学

明治政府の中心的人物であった岩倉具視は、多くの人材を輩出した佐賀藩の教育に強い関心を示し、自分の二人の息子を佐賀へ留学させた。当時、中央から佐賀への留学は珍しく、いかに優秀な教育の場として注目されていたかが分かる。二人の姿は、長崎にある佐賀の英語学校「致遠館」の集合写真にも見ることができる。

▲長崎「致遠館」の写真に残る岩倉具視の息子、岩倉具経(左)と具定(右)



鍋島直正足跡探訪コース【約2時間半】(移動約55分+観光散策約95分)

モデルコース 数多くの直正の偉業を今に伝える資料館や史跡を巡り、その全容を知る

<p>徒歩で約15分</p> <p>佐賀城本丸歴史館 地図▶P35 G-8</p> <p>直正が再建した本丸を忠実に再現した歴史資料館。まずはここで直正の功績や幕末佐賀藩の歴史を!ガイドによる説明も。 [国]佐賀市内2-18-1 [開]9:30~18:00 [休]12/29~12/31 [観]見学無料 [電]0952-41-7550</p>	<p>徒歩で約5分</p> <p>佐嘉神社 地図▶P35 G-8</p> <p>佐賀藩を大きく飛躍させた直正の威徳を賛え創設された神社。その象徴とも言える復元カノン砲に注目。 [国]佐賀市松原2-10-43 [開]9:30~18:00 [休]日曜、祝日、年末年始、展示準備期間 [観]300円(小学生以下無料) [電]0952-24-9195</p>	<p>徒歩で約25分</p> <p>徴古館 地図▶P35 G-8</p> <p>鍋島家代々の伝来品を管理、展示している博物館。本物こそが持つ魅力を感じることが出来る。季節ごとに催しあり。 [国]佐賀市松原2-5-22 営 9:30~16:00 [休]日曜、祝日、年末年始、展示準備期間 [観]300円(小学生以下無料) [電]0952-23-4200</p>	<p>徒歩で約10分</p> <p>築地反射炉跡 地図▶P35 F-8</p> <p>直正が長崎警備のための鉄製大砲を製造するために建設した国内初の反射炉跡。日本の近代化産業の原点とも言える場所。 [国]佐賀市長瀬町9-15(日新小学校校庭内) [開]9:00~17:00(休)月曜(祝日の場合は翌日)年末年始 [観]要予約(有料) [電]佐賀市役所緑化推進課0952-40-7162</p>	<p>車で約10分</p> <p>神野公園の「隔林亭」 地図▶P35 E-6</p> <p>直正の別邸「神野のお茶屋」の茶室を復元したもので、幕末維新期は迎賓館としても利用された。ひとときの閑、殿様気分が味わえる。 [国]佐賀市神野4-1 [開]9:00~17:00(休)月曜(祝日の場合は翌日)年末年始 [観]要予約(有料) [電]佐賀市役所緑化推進課0952-40-7162</p>
--	--	--	---	--

はみだし情報▶直正が置いた理化学研究所精煉方は当初思うように成果が出ず、家臣には禁止を進言する者もいたが、直正は「あれは余の道楽だと言いつつ、存続させた